

令和元年度の展示改修 ～オリエンテーションホールが明るくなりました～

半田 宏伸



図1. 明るくなったオリエンテーションホール

当館では令和2年1月14日～2月10日まで休館し、館内の一部改修工事、展示メンテナンスを行いました。本稿では、休館中に変わった点の一部をご紹介します。

1. オリエンテーションホールLED化

当館のメインであるオリエンテーションホール天井の照明改修を行い、光源を蛍光灯からLEDに変更しました(図1)。

LED化に伴い照明の数も増え、館内が以前よりも明るくなりました。当館は正面玄関と北側の壁面がガラス貼りになっており、曇りの日などは、館内がやや暗くなってしまうことがありました。しかし、その問題が解消され、いつでも明るい博物館に生まれ変わりました。

館内が明るくなったため、解説パネルは文字がはっきりとし、見やすくなりました。演色性も上がったため、長瀬の自然コーナーの岩畳の鳥瞰図など、多様な色を使った図や写真は発色が良くなり、より鮮やかに見えるようになりました。

2. 鍾乳洞の部分改修

生物展示ホールでは、巨大ジオラマの鍾乳洞内を一部改修しました。

まず、展示室の通路頭上に展示していたコウモリ類の剥製を、鍾乳洞ジオラマ内に設置し、鍾乳洞内に暮らすコウモリの姿をよりリアルにご覧いただけるようになりました(図2)。

鍾乳洞の壁面には展示ケースを設置しました。ケースには、鍾乳洞や洞窟で必ずと言ってよいほど見ることのできる、とある昆虫の標本が展示してあります(図3)。少し不気味な姿をしており、好き嫌いが分かれるところですが、よく見るとかわいい?姿をした昆虫ですので、ご来館の際はぜひご覧いただければと思います。



→図3. 展示ケースとある昆虫標本

←図2. ジオラマに展示したウサギコウモリ(剥製)



3. その他の場所でも展示替え

改修をしていない場所でも展示物のメンテナンスを兼ねて展示替えを行っています。

新しく収集した資料や、収蔵庫に保管していた資料を展示し、展示内容を充実したり、展示物のレイアウトを変更し、より見やすくしました。

初めて来られる方だけでなく、何度も足を運んでいただいている方にも楽しんでいただけるよう、学芸員が工夫を凝らして作成しておりますので、改修箇所と併せてご覧いただければ幸いです。

(はんだ ひろのぶ・学芸員)